

足立区環境基金審査会

議事録

令和6年7月24日

【環境基金審査会】会議概要

会 議 名	足立区環境基金審査会				
事 務 局	環境部長・荒井 広幸、環境政策課長・吉尾 文彦				
開催年月日	令和6年7月24日（水）				
開催時間	14時00分から16時50分まで				
開催場所	足立区役所 庁議室				
出席者 (※オンライン参加)	倉阪 秀史	※町田 怜子	石毛 かずあき	佐藤 あい	岡田 将和
	茂木 福美	※舟山 奈緒子			
欠 席 者	袖野 玲子、永野 充				
会 議 次 第	別紙のとおり				
資 料	足立区環境基金審査会資料				
そ の 他					

(吉尾文彦 環境政策課長)

環境政策課長の吉尾でございます。ただいまから足立区環境基金審査会を開催いたします。

審査会は、会場とオンラインを併用した会議となっております。

ご発言の際は、なるべくゆっくり、はっきりを意識していただきますようご協力をお願いします。

オンラインでご参加の委員の方がご意見、ご質問等ある場合は、挙手ボタンでお知らせください。会場参加の委員の方は挙手をいただき、進行いただく会長から指名いたします。

また今回の審査会では、ペーパーレス化を目的とし、配布資料を iPad で共有しています。お一人につき 4 台机の上に置かせていただいております。1 台は資料確認用として、残りの 3 台は審査用としてお使いいただきます。現在は eco U-30 専用タブレットを開いておりますが、それぞれの審査の際、事務局がタブレットを置かせていただきます。審査用タブレットはそれぞれ事前にいただいた評価を入力しておりますので、変更がある方はその都度、ご修正をいただければと思います。ご不明な点がございましたら、職員が控えておりますのでお声がけお願いいたします。

それでは、倉阪会長、よろしく申し上げます。

(倉阪秀史 会長)

倉阪でございます。よろしく申し上げます。

今回、U-30 の募集をしたところ、かなり申請があり、時間的に厳しい審査会になっております。皆さん、ご協力をいただければ幸いです。本日

は、委員定数 9 人のところ、7 人出席しておりますので、会議が成立していることを報告いたします。会場参加が 5 人、オンライン参加が 2 人、欠席が 2 人です。

次第の 1、委嘱状の交付についてですが、今回一部の委員の異動があったことですので、委嘱について事務局からお願いいたします。

(吉尾文彦 環境政策課長)

事務局でございます。今回、区議会から推薦いただく委員 2 名の異動がございました。

委嘱状は机上去用意させていただいておりますのでご紹介をもって交付に替えさせていただきます。

まず、石毛かずあき委員です。続いて、佐藤あい委員です。

よろしく申し上げます。委嘱状の交付と新委員の紹介は以上となります。

(倉阪秀史 会長)

次に本日の議事録署名人の指名をさせていただきます。会場にお越しいただいている石毛委員と岡田委員を指名したいと思います。皆様、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、よろしく願い致します。

続いて次第の 3、資料の確認、会議公開規定の取り扱いについて事務局からお願いいたします。

(吉尾文彦 環境政策課長)

それではまず、資料を確認します。事前に送付またはタブレットに共有している資料として、本日の次第、委員名簿、環境基金助成申請一覧、評価の考え方と採択の基準(案)、評価項目シート、

申請書類 12 団体分でございます。

続いて、会議公開規定の取扱いについてご説明させていただきます。足立区環境基本条例の規定により、「審査会の会議は公開とするが、議決があったときは、非公開とすることができる。」となっております。

前回までの審査会では、申請内容を評価、審査することは、公開になじまないことや、公開とすることで申請者が傍聴する可能性も出てきてしまうことから、審査に関する部分は非公開とすることを決定しております。今回の審査会においても引き続き審査は非公開とさせていただくということでよろしいかご確認をお願いしたく思います。

(倉阪秀史 会長)

ただいま事務局から説明があったとおりでございます。本審査会は議決により非公開とすることが出来ます。

eco U-30 とファーストステップは書類審査のみなので非公開とし、一般助成については、申請者のプレゼンテーションや質疑応答までは公開をして、その後の審査については非公開とするのが従来のやり方でございます。こちらで進めたいと思いますが、ご意見はいかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、審査の部分は非公開とさせていただきます。

続いて、審議の諮問について、事務局からお願いします。

(荒井広幸 環境部長)

はい。それでは私の方から代読をさせていただきます、諮問書をお渡しさせていただきます。

(諮問書 朗読)

よろしく願いいたします。

(倉阪秀史 会長)

承りました。ただいま諮問をいただきましたので、今回は 12 件の申請について審査をしたいと思います。

それでは次第の 5、評価の考え方と採択の基準について、事務局から説明をお願いします。

(吉尾文彦 環境政策課長)

まず、評価方法について説明いたします。評価の考え方と採択の基準(案)をご覧ください。

タブレットでご覧の方は、資料フォルダ内の 3 評価の考え方と採択の基準(案)をご覧ください。

申請は eco U-30 助成、ファーストステップ助成、一般助成に分かれます。

eco U-30 助成、ファーストステップ助成は書類での審査、一般助成はプレゼンテーションと質疑応答がございます。今回は区が設定する課題対応型部門への申請がございました。それぞれ評価のポイントを記載しておりますのでご確認ください。

評価項目のうち 6 項目は 3 部門共通で、2 項目は部門ごとに異なります。全 8 項目を 0 から 5 までの 6 段階で評価します。3 以上の評価であれば、その審査項目は基準を満たしていると判断されます。

なお、eco U-30 助成につきましては今回からスタートした新しい部門となります。部門別評価に記載のとおり、「若年層が中心となる活動であるか」、「若年層の環境意識の向上、行動変容につながるか」の視点で評価をしていただければと思います。

評価コメント欄には、活動内容や経費の視点から、評価する理由や、評価しな

い理由、または「疑問点」や「条件を付けたいこと」などのコメントをご入力ください。採択・不採択をご検討いただく際に使用いたします。

審査は、会場でご参加の委員はタブレットから入力を行っていただきます。オンラインでご参加の委員につきましては、事前にお送りしたURLからアクセスの上、入力をお願いいたします。

次に採択について説明いたします。

集計作業終了後、評価の集計結果とコメントをスクリーン上に公開します。その結果を踏まえ、各申請について1件ずつ協議いただき、採択・不採択を決定していただきます。

採択の目安は全委員の合計が、6割以上、つまり平均3以上の評価としますが、例えば5割以下の点数を付けた委員がいる場合など、評価にばらつきがある場合は協議のうえ採択、不採択を決定していただきます。また、活動の一部のみ認めること、助成金の用途を限定するなどの条件を付けるときは、皆様のコメントなどを考慮して、協議のうえ決定いただきたいと思いますと考えております。

今回、一般助成の申請案件については全額助成の申請となっております。通常、助成対象経費の2分の1が助成額となりますが、今回の申請は課題対応型ですので、助成対象経費の全部を申請することができ、審査会が特に優秀と認めた場合は全額の助成を認めることとなります。

案件によっては、審査が難しいこともあるかもしれませんが、公費を使っただけの助成でございます。学識、区議会議員、区民それぞれのお立場や視点で審査をお願いいたします。

以上事務局案について説明いたしま

した。

事務局からは以上でございます。

(倉阪秀史 会長)

ありがとうございます。

簡単に整理しますと、0点から5点までの6段階で評価をし、意見があれば、自由記述欄に記入していただきます。

採択の目安は全委員の合計が6割以上で、各項目の評価が3以上です。ただ採点にバラつきがある場合は、その場で議論をするという形にしたいと思います。

評価、採択について、ご意見やご質問があればお願いします。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは、評価と採択の基準は、事務局案のとおりで進めさせていただきます。

審査に移る前に一点確認をいたします。委員の皆様の中に、本日の申請者と利害関係のある方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いします。

(挙手なし)

利害関係者なしと確認しました。

それでは、次第の6、eco U-30 助成の書類審査に進みたいと思います。

タブレットでご覧いただく方は該当の申請書を開いてください。

それぞれについて意見交換を行いたいと思います。

【評価については非公開】

続いてファーストステップ助成の書類審査に移ります。

タブレットでご覧いただく方は申請書フォルダから該当の申請書を開いてください。ファーストステップ助成も書類で審査をします。それぞれについて意見交換を行いたいと思います。

【評価については非公開】

(倉阪秀史 会長)

続きまして、eco U-30 助成の採択・不採択をまとめます。

受付番号1「身近な環境保全について学び、実践」は不採択、受付番号2「第18回クリスマスフェスタにおける環境活動」は採択、受付番号3「足立区内スーパーマーケット環境調査」は採択、受付番号4「親子で学べる体験教室」は不採択、受付番号5「多世代ごちゃまぜのゴミ拾いイベントの開催とコミュニティの創出」は採択、受付番号6「メイプルシロップを生み出す里山の環境づくり」は採択、受付番号7「地球を共有するための環境への学びと取組み・エキシビジョン」は不採択、受付番号8「環境問題への意識を向上させる会」は採択となります。

続きまして、ファーストステップ助成の採択・不採択をまとめます。

受付番号9「有機農業の環境保全効果と足立区内オーガニック食材取扱店MAPを記載したチラシ制作と発信」は不採択、受付番号10「カヌーで川の清掃活動プラス生物・水質調査」は採択、受付番号11「あだちコーヒーエコアクション」は採択となります。

続きまして、一般助成の審査です。事務局から申請者の入室のご案内をお願いいたします。

(申請者入室)

(倉阪秀史 会長)

それでは、申請内容について8分間程度でご説明をお願いします。終了のタイミングで事務局からアナウンスいたします。その後約10分で質疑応答をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

す。

(アサヒユウアス株式会社 堀江氏)

「あだち Coffeeloop プロジェクトの立ち上げ、ローカルサーキュラーエコノミーの構築」ということで、アサヒユウアスからご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

あだち Coffeeloop プロジェクトの活動の概要についてご説明をいたします。足立区内のコーヒーかすをバイオマスプラスチックにアップサイクルして循環させていく、プラットフォームを作りたいと考えております。足立区のカフェ等から抽出されるコーヒーかすを福祉連携で回収させていただき、コーヒーカップや、マイボトル等の日用品にアップサイクルして日常へ普及を目指し、循環型のサイクルを回していこうというプロジェクトでございます。

活動の目的です。足立区内のカフェ、企業から排出されるコーヒーかすを、ゴミではなく資源として再利用していき、廃棄物として焼却されるコーヒーかすを削減します。目標は平均月60キロの回収量を目標に進めていきたいと考えております。コーヒーかすの回収活動につきましては、足立区内の福祉作業所さんと連携させていただいて、地域との関わり、就労の機会を創出していくところを狙っていきたくて考えております。また、回収したコーヒーかすをアップサイクルした、カップやマイボトルを開発し、足立区内のカフェや企業で活用することで、使い捨てのプラスチックや、紙コップを削減していきたいと考えております。目標としては年間1万2千個のプラスチック容器の削減を目指したいと考えております。また、足立区内でマイボトルの

啓発、浸透を行い、区内におけるSDGsの意識醸成を計っていきたいと思っております。

活動エリアは、北千住あるいは足立区SDGs未来都市の綾瀬を中心に活動をしていきたいと思っております。

アップサイクルのプロダクトは、画像で載せさせていただいているようなカップやマイボトルを開発させていただきまして、足立区内のカフェや企業、ホテル、大学などでの活用を推進していきたいと思っております。

マイボトルの活用推進ということで、テイクアウト用のプラスチック容器をマイボトルに切り替えていこうといったところを推進し、マイボトルを使っていた特典というところの企画や展開、あるいはマイボトル推進企業として、POPやステッカーを配布させていただきまして、マイボトルのデザイン等は、足立区民に愛されるようなデザインを展開していきたいと思っております。

また区民向けの啓発セミナーという事で、今回は一般社団法人ゴミプロジェクトのマシガンズの滝沢様と企画をさせていただきまして、足立区内の若年層の環境意識を高めるという活動に繋げていきたいと思っております。

またマイボトル等を活用した取り組みとしまして、足立区内のマイボトル用ウォーターサーバー設置場所のご案内や、それを活用する事でプラスチックの3Rの重要性を知ってもらう場にしていきたいと思っております。そうした活動によって循環型社会あるいは地域環境保全の活動に取り組むきっかけを、啓発セミナーを通じて持ち帰っていただきたいなというふうに思っております。

また啓発活動をもう1つです。小・中学校での出前授業ということで、現在、区内の10校、約1,300名のところを対象に開催をしていきたいと思っております。若年層に比べて、環境意識の低い30代～50代の方々に出前授業で学んだことを子どもたちから伝えてもらう。児童から保護者に伝えてもらうことで環境意識の向上を親子で図っていくという取り組みにしていきたいと思っております。

最後はスケジュールになります。9月から開始をさせていただきます。まずはオリジナル商品の設計、開発、企画を進めさせていただきたいと思っております。同時並行で、連携させていただく福祉事業所様の募集、選定をさせていただきながらオリジナル商品の製造をしていきます。12月位から販売準備が出来るような形の進め方をしていきたいと思っております。こちらのプロジェクトに賛同いただくカフェや企業の方には、9月以降、様々な企画をご紹介させていただいて、1店舗、1店舗、プロジェクトの参加企業様を増やしていきたいと思っております。

最後に啓発セミナーと企画も9月から始めさせていただき、年明けの1月～2月に順次開催させていただけるような準備を図っていきたいと思っております。

少し駆け足になりましたが、我々アサヒユウアスからのプロジェクトのご紹介をさせていただきました。ありがとうございます。

(倉阪秀史 会長)

ありがとうございます。

それでは、ご意見、ご質問のある方は挙手をお願いします。オンラインの方は手を挙げるボタン押してください。いか

がでしょうか。

(石毛かずあき 委員)

計画されたリサイクル製品の製造に関して、また小学生を対象として、それを保護者にまで拡大されて行う取組みについては大変感銘を受けます。

まず1つは御社がこれを行おうと思っただきっかけは何ですか。

(アサヒユウアス株式会社 堀江氏)

ありがとうございます。

やはり脱炭素というところを少しでも社会的に貢献していきたいという思いの中で、廃棄物になっているものを極力減らしていきたいと考えたときに、コーヒーかすをアップサイクルして、循環型にしていこうというところで、こういったプロジェクトを考えさせていただきました。

(石毛かずあき 委員)

御社ほどの企業であれば、例えば社会的責任がある中で、CSRの活動として、ご自身の事業としてやれば社としても非常にいいイメージを持たれると思いますが、補助金を対象として行うメリット、目的は何でしょうか。

(アサヒユウアス株式会社 小原氏)

アサヒユウアスで事業責任者をしている小原と申します。おっしゃるとおりで、アサヒビールやアサヒ飲料といった大きな会社のCSR取組みとするという道もあると思います。

ただCSRの取組みは、分かりやすくいうと本業の売り上げが少し調子が悪くなったりした時に、取組みとしてやめてしまうことが結構あります。

我々としては継続していきたいという思いで、このようなこと自体を事業とする為にアサヒユウアスという小さい会社

を作っています。なので、継続性を持たせたいというのがアサヒユウアスでのお答えです。

今回、補助金を申請させていただいたのは、シンプルにアサヒユウアスが小さい会社なので、そんなに資金が潤沢ではないです。もちろん黒字化していかないといけないので、資金面での援助をいただきたいというのが1つです。

2つ目の目的の方がウエイトとしては大きいのですが、このようなプラットフォーム的な取組みというのは地域との連携が肝です。そのようなことをする時に足立区から認められた、お墨付きをいただいた取組みということになると、非常に広げやすいということがあります。その2点で申請をさせていただいております。

(石毛かずあき 委員)

非常に丁寧で正直なご返答で本当にありがとうございます。

1つのテーマとしては、福祉施設との連携というふうに出ておりますが、既に何かアクションを起こされているんですか。それともこれからですか。

(アサヒユウアス株式会社 堀江氏)

まだこれからになりますので、どういった福祉作業所さんと連携させていただく可能性があるのかといったところについてこれからご相談させていただいて、可能な限り、一緒にやっていきたいと思っています。

(石毛かずあき 委員)

ありがとうございます。

(アサヒユウアス株式会社 小原氏)

少しだけ補足をします。実は墨田区の方ではコーヒーかすを対象とした活動を行っていて、福祉作業所と連携もしてお

ります。

一年程行って我々のノウハウというか、上手く連携する方法が分かってきましたので、そちらを活かして足立区の方でもやりたいと思っております。

(石毛かずあき 委員)

ありがとうございます。

(倉阪秀史 会長)

他にご質問等はございますか。

岡田委員お願いします。

(岡田将和 委員)

ご提案、ありがとうございます。

墨田区でやられているということですが、足立区の企業や福祉事業所など色々な事業者があると思いますが、どういったところにあたりを付けていらっしゃるか教えていただきたいと思います。

(アサヒユウアス株式会社 堀江氏)

ありがとうございます。

基本的には足立区のカフェや企業を対象に進めていきたいと思っております。具体的には少しずつお声掛けはさせていただいている状況で、スライドでいきますと、5スライド目になります。現時点の参加予定で書かせていただいておりますが、八重洲コーヒー様、LUSHコーヒー様、後は北千住マルイ様や、ご相談のレベルですが足立成和信用金庫様にお声掛けをさせていただいております。どんな共創の仕方が出来るか、参加の仕方等についてご相談をさせていただいているという状況でございます。

(岡田将和 委員)

ありがとうございます。

やはり墨田区とは隅田川を渡ればすぐ八広もありますし、連携も必要かと思えます。もっと足立区民の方に喜んでもらえるような内容が入っているとより分か

りやすいかなと思えました。

ありがとうございます。参考にさせていただきます。

(倉阪秀史 会長)

他にご質問等はございますか。

町田委員お願いします。

(町田怜子 委員)

ご説明ありがとうございます。

素晴らしい取組みで。コーヒーかすは非常に私たち研究分野でも注目しているところなので、こうやって社会実装が広がるといいなと感じたところです。

教えていただきたいのは、開発するプロダクトの製作費も、事業費の中で作っていく訳ですけれども、出来たタンブラーを将来的に販売するとか、そういうことはなく、出来たものはこの活動の為に配っていく理解でよろしいでしょうか。

(アサヒユウアス株式会社 堀江氏)

ご質問ありがとうございます。

今は販売を予定しております。というのも、この補助金をいただいている期間だけではなくて、ずっと継続して使っていただきたいというところもありますし、そういった面で我々も事業を続けていく上で、今回は販売をさせていただきます。

ただ今回の活動では、特別価格を設定し、本来の価格ではない価格で販売をさせていただきながら広げていきたいと考えております。

(町田怜子 委員)

分かりました。ありがとうございます。

(倉阪秀史 会長)

他にご質問等はございますか。

私からの質問です。

コーヒーかすのアップサイクルは、とても良い取組みですが、啓発セミナー97万円というのが、アップサイクルのコー

ヒープロジェクトと直接の関係が薄いような気がします。

芸人さんのお話を聞いて喜ぶ人は沢山いると思いますが、これがついてきた経緯や、なくてはならない理由を教えてください。

(アサヒユウアス株式会社 堀江氏)

ご質問ありがとうございます。

我々もそこは悩んだところではございますが、やはりせっかくマイボトルの展開をしていくというところで、更には若年層の方々に知っていただく機会を少しエンタメの要素も入れながら、かつ、お子様と保護者様の方で楽しんでいただきながらマイボトルであったり、環境への意識というところを併せて我々のセミナーでご紹介させていただくことで、より身近に感じていただけて使っていただく機会が多くなるのではないかと思います。このような企画を考えさせていただきました。

(倉阪秀史 会長)

セミナーが親子 100 組ですよね。

(アサヒユウアス株式会社 小原氏)

今のところはその予定です。

我々も 2 年間、地域との取組みをいろいろ行っておりますが、やはり非常に環境意識の高い方々、サステナビリティに対する意識の高い方々には非常に応援してもらえます。

ただ、マスで捉えると興味がない方が大半です。そういった方々に、Coffeeloop はいい取組みなのでといっても頭にも入らないというか、目にも留めてくれないというのを 2 年間いろいろやっていて悩んでいるところです。

興味がない人にも知ってもらおうきっかけとして、エンターテイメントの要素を

入れていくのが効果的なのではないかと考えた次第でございます。

(倉阪秀史 会長)

ざっくりこのイベントを行うのに、100 万かかっている、100 組というと 1 組 1 万円ですよね。それを別の形でやればもっと広い層にアプローチ出来るのかなと思います。会場の 100 組だけではなくて、例えばそれを何かのテレビの企画、ローカルなテレビを呼んで来て何かやるとか、何かもっと活用の仕方があるはずですよ。そこは 100 組だけに 100 万円使うというのは少し考え直した方が良いでしょう。

どうせ呼んでくるのであれば、それを使って何かのローカルなテレビ局の 1 つの番組でより広く見てもらうとか、何かやりようがあるんじゃないかと思います。100 万をかけて芸人を呼んでくるのであれば、それをもっと使って波及させる事は出来るはずなので、少しもったいない使い方だと思っています。

(アサヒユウアス株式会社 小原氏)

アドバイスいただいてありがとうございます。イベントの様子はもちろん収録して YouTube の動画等にして残すというのはやります。YouTube Live 等で、オンラインで沢山の方に見ただけのように組もうと思っています。書面に書いていなくて恐縮です。

後はおっしゃるとおりで、マスコミを呼んでくるというのは仕掛けです。我々は小さい会社ですが、一応アサヒグループの傘下になりますので、アサヒグループの広報部隊がテレビや新聞に対して、こういう事をやるから来てくれ、というふうにオファーが出来るんですね。

そのような仕掛けをして、100 人の閉じたイベントではなくて、広がりを持た

せるようにいろいろやっていきたいと思
います。

(倉阪秀史 会長)

有効に活用していただきたいと思いま
す。公費を使う訳ですので、既存のもの
を持ってきて、100 人だけに聞かせるの
はやめていただきたいと思います。

他にありますか。

それでは質疑は以上になりますので、
こちらでアサヒユウアス様はご退席とな
ります。

ありがとうございました。ご退出くださ
い。

(申請者退出)

(倉阪秀史 会長)

続いて、委員の皆様で意見交換をし、
そのうえで、評価をしていただきたいと
思います。

【評価については非公開】

(倉阪秀史 会長)

それでは、一般助成の採択・不採択を
取りまとめます。

受付番号 12「あだち Coffeeloop プロ
ジェクトの立ち上げ、ローカルサーキュ
ラーエコノミーの構築」は採択となりま
す。

委員の皆様、ありがとうございました。
これで本日の審査は終了いたしま
す。

審査結果は、事務局を通じて区長に答
申いたします。答申書については、時間
の都合もありますので、会長に一任いた
だく形で、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、私の方で答申書を取りまと
めます。最後に委員の皆様から何かござ
いますか。

ないようですので、事務局から事務連

絡をお願いします。

(吉尾文彦 環境政策課長)

長時間にわたりご審議いただき、あり
がとうございました。事務局からのお知
らせです。

次回の環境基金審査会ですが、令和 7
年度第一期の申請についての審査会は 2
月 3 日の午前中に開催する予定でござい
ます。詳細は 1 か月前頃にご案内させて
いただきます。次回は一般助成とファース
トステップ助成になります。

事務局からは以上です。

(倉阪秀史 会長)

ありがとうございました。

これをもちまして、環境基金審査会を
閉会します。ありがとうございました。

以上

(会議録署名)

足立区環境基金審査会 会議録記録署名員
(令和6年7月24日 開催)

会 長	倉 原 泰 史
署 名 委 員	石 井 心 可 也
署 名 委 員	岡 田 将 希